

論文内容要旨

論文題名：急性心筋梗塞患者の食習慣の実態

専攻領域名：臨床栄養学領域

氏名：本橋美希

内容要旨

【背景】心筋梗塞発症には脂質異常症、高血圧、糖尿病等の危険因子が関与し、その成因には食習慣などの生活習慣が関与している。食習慣と心筋梗塞の発症については食物摂取頻度調査票 (FFQ) を用いた前向きコホート研究があるが、発症直前のより詳細な食習慣について調査した報告はない。

【目的】自記式食事歴質問票 (DHQ) を用いて、急性心筋梗塞(AMI)発症患者の食習慣の特徴と問題点を明らかにすることを目的とした。

【方法】2014年5月～2017年7月に昭和大学病院循環器内科に入院したAMI患者のうち、DHQ調査に対する回答が得られた147名を対象とした。対象者のうち比較対照群と背景因子を揃えるために50歳未満および女性の患者を除外した122名をAMI群とした。比較対照の健常群として疾病を有さず服薬歴のない50歳以上の健常ボランティア男性25名に対して行われた簡易型自記式食事歴質問票 (brief-type self-administered diet history questionnaire: 以下BDHQ) の調査結果を採用した。AMIの発症前と健常人の採血前の食習慣、AMI発症時と健常人の空腹時の血液検査データを比較検討した。

【結果】年齢、体格指数は両群間に差はなかった。AMI群でHDLコレステロール、血清エイコサペンタエン酸が有意に低値であった。栄養素摂取量の比較ではエネルギーおよびエネルギー産生栄養素 (たんぱく質、脂質、炭水化物) に差はなかったが、カリウム、カルシウム、コレステロール摂取量はAMI群で少なかった。食品群別摂取量の比較ではAMI群で卵類、緑黄色野菜、その他の野菜、いも類の摂取量が有意に少なく、魚介類およびn-3多価不飽和脂肪酸が少ない傾向であった。一方、砂糖類、菓子類、油脂類はAMI群が多く摂取していた。

【結論】AMI患者はいも類、野菜類、魚介類の摂取量が少なく、その結果カリウムやカルシウム、n-3系多価不飽和脂肪酸の摂取量が少なかった。またAMI患者で卵類およびコレステロール摂取量は少なく、砂糖類や菓子類、油脂類の摂取量は多かった。この食習慣の是正がAMIの発症および再発予防のための栄養指導において重要である。